

都小っ子だよ

西都市立都於郡小学校 第3号 令和元年6月11日

「私と小鳥と鈴と」

金子みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のやうに、
地面を速くは走れない。
私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

それぞれが、べつべつで、でもそれに優劣は無いことを、それぞれが、素晴らしいのだということ、これほどうまく、表現した文章はなかなか出会うことができません。

学校というところは、いろいろな子どもが集団で生活しています。そこでは、個性豊かな子どもたちが、いろいろな形で影響し合っています。「勉強のできる子」「勉強の苦手な子」「運動の得意な子」「運動に苦手な子」「気の強い子」「気の弱い子」「文句ばかり言う子」「文句ばかり言われる子」……あげていたら切りがありません。でも、どんな子どもも全員が大切な存在だということです。

いろいろな子どもがいていいのです。そんな集団の中で、一緒に生活をしながら、社会性を身に付け、大人になっていくのです。

「みんなちがって、みんないい。」その通りです。

『杭を打てば情報がたまる』

親はみんな、わが子の学力を上げたいと願っています。では、そのためにどうしたらいいのでしょうか？いろいろな考え方があると思いますが、お勧めしたいのが本物体験を増やすことです。

例えば、ある男の子は休日に博物館の特別展に連れて行ってもらい、そこで本物の人工衛星、ロケットエンジン、宇宙服などを見ました。やはり本物は迫力があって、その子はとても喜んだそうです。その後は、テレビで宇宙関係のニュースが流れると真剣に見るようになり、小学生新聞や図鑑を見ていると、宇宙に関する記事があるとよく読むようになったそうです。

このように、子どもは本物を体験すると強烈な印象を受け、そのことに興味関心をもつようになります。すると、生活の中でそれに関する情報が流れてきたとき意識に引っかかるようになります。

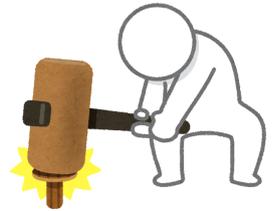
これは、川に杭を打ち込むようなものです。流れる川の中に杭を打ち込むと、流れてきた物が引っかかってたまります。先ほどの子は、生活という流れる川に本物体験によって宇宙に関する知識の杭を打ち込んだのです。すると、その後、生活の中で流れて来る宇宙に関する情報が引っかかってたまるようになりました。これが数年経つとかなりの情報がたまり、ある程度まとまった知識になります。

そうなったところで、学校の授業で宇宙や星の勉強をすると、内容もよくわかって非常におもしろく感じられます。宇宙に関する知識も興味関心もまるでない子がその授業を受けたとしたら、内容もよくわかりませんし、おもしろいとも思えないのです。

実は、勉強が好きでよくできる子には、このような知識の杭がたくさんあります。ですから、日ごろからいろいろなことに知的な興味関心を持ち、情報も自然にたまっているのです。

ということで、子どもたちには本物体験をたくさんさせてあげて欲しいと思います。

発掘体験をして歴史に興味をもった子もいますし、水族館でメダカの卵を採取する体験をして、魚に対する興味が高まった子もいます。



7月の主な行事		8月の主な行事	
7月 2日(火)	参観日(いのちの教育参観日) 給食試食会(1年生保護者)	8月1日(木)	登校日
7月 6日(土)	青少年健全育成市民大会	8月13日(火)~8月15日(木)	学校閉庁日
7月12日(金)	小中合同運動会結団式	8月18日(日)	P.T.A奉仕作業
7月19日(金)	1学期終業式	8月26日(月)	2学期始業式
7月20日(土)	西都市夏祭り夜間街頭パトロール		

相田みつを名言集より「夢はでっかく 根はふかく」

※夢と希望は、人を前進させるエネルギーになります。それを支えるのが、「学力」「体力」「気力」なのでしょうか。